

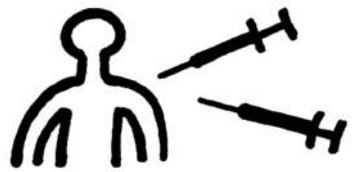
コロナ禍を終息させる切り札がワクチンです。しかし、日本のワクチン接種率はインドやインドネシア以下で、主要国で最低クラスに低迷しています。

100人あたりの接種完了人数は、日本では約2人にすぎませんが、イスラエルでは約56人で、集団免疫の獲得まであと一歩のところまで来ています(24日時点)。

イスラエルや英国など、ワクチン接種が進んだ国では、新規感染者も死者数も激減しており、通常の社会活動が戻りつつあります。世界第3位の経済大国であるわが国が「ワクチン敗戦」といえる大変残念な状況にある理由は別の回に考えたいと思います。

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

がん患者もワクチン接種を

て、仕事を休むはめにはなりません。また、

横浜市立大学の研究チームは12日、ワクチンを2回接種した日本人の約9割で、従来型ウイルスだけでなく、変異型の感染も防ぐ抗体ができたという分析結果を発表しました。国内で変異型がまん延する中でも、ワクチンの接種を進めるべきだという方向性を

が確認できていました。変異型に対しても、国内で流行している英国型には94%で、南アフリカ型は90%、インド型は97%と、高い感染防止効果が確認されました。

一方、1回目の接種後2週間で効果が確認できたのは、従来型に対しては6割でしたが、インド型は約4割、英国型や南ア型は約2割にとどまりました。とくに変異型に対しては、2回の接種が不可欠であることが分かります。

がん患者についても、一部の例外を除くと、ワクチンの接種が推奨されます。そして、健康な人以上に、2回の接種を受ける必要があります。次回、解説します。

(東京大学特任教授)

とはいえ、この連載でも紹介しましたが、ファイザー製のワクチンはがん治療用に開発されていた技術を応用した世界初のmRNA医薬品です。まさに、人類の英知の結

晶といえるでしょう。

私のように2回の接種を完了した日本人はごく少数にすぎませんが、すぐれた効果を実証済みです。もっとも、2

回目の接種後は38度の熱が出る

示していると言えます。

同チームによると、2回目の接種から1週間後の血液に含まれる抗体を調べたところ、従来型については接種者の99%で十分な感染防止効果

の99%で十分な感染防止効果